

# キャナルシティ博多 イーストビル

Canal City HAKATA East Building

No. 21-008-2014作成  
新築  
物販

発注者	福岡地所株式会社	カテゴリー				
設計・監理	日本設計(設計監修) 株式会社フジタ(設計・監理)	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB	
施工	株式会社フジタ	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

## 都市の劇場、日本最大級の壁面緑化

### 計画概要

1996年に開業し15周年を迎えるキャナルシティ博多は、福岡市の2核(天神・博多駅)の中心に立ち、都心の回遊性を担い続けている大規模商業拠点である。2011年3月には新博多駅ビル竣工と同時に九州新幹線開通を迎え、都市への流入人口が著しく変化中、キャナルシティ博多イーストビルは都市回遊動脈の強化を目的として計画された。

創業当初よりキャナルシティ全体に流れるコンセプト＝「都市の劇場」は、訪れた人々がさまざまな場所で見られる(観る観られる)の関係を自然に創り出し、それ自体がひとつの街の風景となるように巧みにデザインされた空間をつくりだしている。

イーストビルはキャナルシティ博多の増床として、上空通路で結ぶ客動線、博多駅側からのゲート性、フレキシブルなフレーム計画、1・2Fカーテンウォール、3・4F壁面緑化システム、開放性のある吹き抜けデッキ+上部ガラス屋根などの特色を持っている。建物構成としては、路面型店舗の集合体とし各々ESC・ELVの縦動線で店舗内を移動する。大きく北棟・南棟に別れ2階デッキで接続、開放性のあるストリートオープンモール空間を構築した。既存モールから見えるファサードは全て2層分のガラスとし、上部は外壁から持ち出した傾斜鉄骨フレーム架構にリーフウォール緑化システムを施し、日本最大級の壁面緑化(約3000㎡)を実現する。



北側立面 (博多駅側)



オオイトバキノX カロライナジャスミン テイカカズラ ピナンカズラ

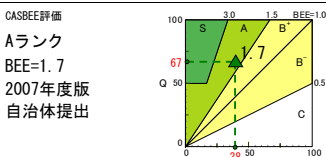


ヘデラ(2種)

壁面緑化範囲・植種図



既存キャナルモール



### 国内最大級の壁面緑化

高さ地上10.5m~21.5m、直線距離総延長230mに渡り建物を包み込む約3000㎡に及ぶ壁面緑化は、他に類を見ない国内最大級のプロジェクトであり、さまざまな工夫を凝らしたシステムが採用されている。

### 特殊な緑化技術

荷重、風、輻射熱など、さまざまな環境圧をうけやすい壁面緑化には、花や農作物の育苗用に開発された固化倍土(エクセルソイルマット)を基盤としたリーフウォール工法が採用された。このシステムは、土や容器を使わないため、土の流出や根詰まりの課題をクリアしている。



エクセルソイルマット

リーフウォール工法  
壁面緑化ユニット

### 外向き86°に傾斜する壁面緑化

この壁面緑化では、緑化の常識とは相反する、外向き86°に傾いた壁面緑化を実現している。スポンジ状に固化された緑化ユニットの特性を活かし、逆勾配の建築意匠に追従させた。

### 環境浄化植物の採用

壁面緑化の植種は全て常緑であり、オオイトバキノX、ヘデラ(2種)、カロライナジャスミン、ピナンカズラ、テイカカズラ計6種を採用。特にオオイトバキノXは環境浄化植物であり、NO2を体内で分解し酸素を大気へ放出する能力を持つ環境に配慮した植物である。

### 荷重軽減とメンテナンスへの配慮

通常、壁面緑化ユニットを100%配置するのに対し、当プロジェクトでは、50%をSUSメッシュの緑化補助資材とし、荷重を約50%軽減した。灌水システムはドリップ式ホースを採用、5ブロックに分け給水にトラブルが発生した場合は中央管理室で警報が確認できるシステムとしている。また、ユニットの設置間隔を広く取ることにより、メンテナンススペースを確保し、作業性を向上させている。

### 壁面緑化を生かした照明デザイン

風にそよぐ壁面緑化+散りばめたLED照明による光の演出をプラスする事により壁面緑化のボリューム感と柔らかな表情を醸し出した照明計画となっている。

### 設計担当者

基本設計・設計監修 日本設計 担当・統括: 森浩、建築: 前田哲、森岡知弘  
設計・監理 フジター級建築士事務所 担当・統括: 塩田高義/建築: 平田学、大田雄介 構造/渡原健夫 設備/鈴木健二、川上千草夫

### 主要な採用技術 (CASBEE準拠)

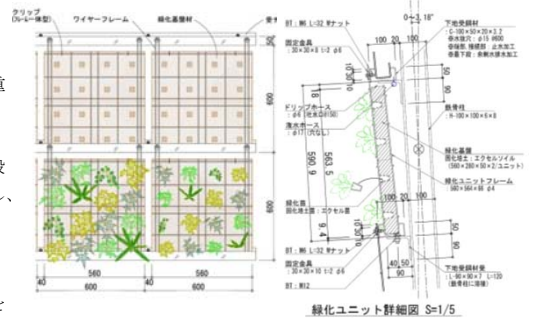
- Q3. 1. 生物環境の保全と創出 (建築緑化)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (建物配置のまちなみとの調和、ランドマークの創出)
- Q3. 3. 地域性・アニミシティへの配慮 (空間提供、豊かな中間領域の形成、地域の回遊性の形成)
- LR3. 2. 地域環境への配慮 (建築緑化、日陰の形成、空気浄化作用)



南側立面 (既存キャナル側)



北側立面 (博多駅側)



緑化ユニット詳細図 S=1/5

緑化ユニット配置図・断面図

建物データ	
所在地	福岡県福岡市
竣工年	2011年
敷地面積	8,769㎡
延床面積	18,534㎡
構造	S造
階数	地下1階、地上4階